馬耳東風

一昔前までは催事の受付等で住所，氏名，連絡方法などを記入することに何の躊躇もなかった．しかし，最近ではそれらを書くとき，大丈夫かな？ と考えてしまう．我家にも「息子」から電話がかかってきた．受話器を取った妻は，「風邪をひいて声が出にくくなって…」という「息子」に「そんな些細な事で電話など寄こさなくても早く医者に行きなさい」と一喝し，事なきを得たが，息子の友人宅にも軒並み電話が掛かったようで，「息子」は息子の高校の同窓会名簿を入手していたようだ．様々な知らぬ会社からDMが届くのも，当方の住所氏名等が名簿屋を通じて売買，利用されているようで良い気はしない．

米国で日本などの同盟国を含む多くの国の要人の通話が傍受されていた事実が明るみに出て，ドイツのメルケル首相など厳重に抗議したようだが，米国では携帯電話の通話内容の70％以上が記録されているという．中国では飛交っている情報の傍受はもとより，他国の情報システムに侵入して機密情報を盗んでいると言われ，国家主導の情報戦争の感がある．

現在，高速道路は勿論，一般道でも各所に監視カメラが設置され通行車両が監視，記録され，更に街角でも随所に監視カメラが設置され人の動向が記録されている．事件が発生すると周辺の監視カメラの映像を分析することでかなり高い確率で犯人像や逃走経路が特定されるようだ．東海道新幹線では焼身自殺事件をうけて，2017年までに9割の車両で客室に監視カメラを設置するという．また，単身高齢者家庭などに最新の情報機器を配布すれば，住人の健康状態などの生活情報を行政機関等が自動的に把握できるようになると言う．これらは市民生活の安全性を向上させるための手段として許容すべきものであろうが，これらを以って安心と言うべきか，24時間，監視されていると考えるべきか複雑な気持ちになる．更に監視社会の先には，外から制御できる種々の家庭内機器あるいはインターネットでシステム化された車が遠隔操作により制御不能になる等の，便利さとは逆の恐怖の情報化社会が迫っているように思われてならない．

我々は情報を利用する場合にはその出所を見て信頼できるか否か判断するが，一旦盗まれた個人情報はそれがどのように利用されようが我々には選択の余地はない．名簿情報，通信情報，人・車の動向情報，更には家庭内の出来事まで第3者に丸裸になりつつある．ドイツの保安会社の経営者は膨大な個人情報が集められている現状から考えて，いずれ個人情報は事実上素っ裸になるであろうと予想している．利便性・安全性を向上させるための様々なシステムを利用するにあたり，プライバシー保護と安全性の確保をどのように調整してゆくのか，非常に大きな問題である．昨年10月5日から施行された「行政手続きにおける特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」に基づき，年明けから一部で運用が開始された．個人番号が付けられた今，運用次第ではこれも生活を監視される道具となる．この法律についてはまだその費用対効果，利便性は判らないが，年金機構を始め多くの行政機関・会社等から登録データが漏洩していることを考えると，利便性以上に大きな不利益を被るのではないかと思うのは筆者のみであろうか．便利さと引き換えに失われるものの大きさを考え，真に安全で豊かな社会とは何か，再考する必要がありそうだ．

（青）